

同日同時刻にエネルギー記者会、  
農政クラブに資料配布しております。

2008年9月17日

記者各位

出光興産株式会社

**農薬成分にカウントされない水稲用種子消毒剤  
「タフブロック」が土壌伝染性病害に適用拡大  
- 1回の処理で種子伝染性病害と土壌伝染性病害を同時防除 -**

**当社(本社:東京都千代田区、社長:天坊 昭彦)の水稲用微生物防除剤「タフブロック」は、9月10日付けで、土壌伝染性病害「苗立枯病(リゾープス菌、フザリウム菌)」に適用が拡大しました。**

「タフブロック」は、稲の栽培において防除が不可欠な5種類の種子伝染性病害「いもち病・ばか苗病・苗立枯細菌病・もみ枯細菌病・褐条病」に加え、甚大な被害を及ぼす土壌伝染性病害「苗立枯病(リゾープス菌・フザリウム菌)」にも適用が拡大されました。

多くの育苗場面では、種子伝染性病害の防除に加え、土壌伝染性病害の防除が実施されています。「タフブロック」は、1回の処理で種子伝染性病害と土壌伝染性病害「苗立枯病(リゾープス菌、フザリウム菌)」を同時に防除できます。このたびの適用拡大により、農薬成分にカウントされない「タフブロック」を、幅広い防除に使用することが可能になったことに加え、防除作業の省力化も期待できます。

特別栽培などのニーズに応える商品として、本年1月から販売を開始しましたが、新潟県、富山県、長野県など、全国有数のコメ生産地域において採用が進みました。今後、さらに多くの「食の安全・安心」「環境保全型農業」を指向する生産現場へ、迅速に普及展開を図っていきます。

「タフブロック」の有効成分は、栃木県農業試験場が発見したかびの仲間であるタラロマイセス フラバス菌です。この菌は、病原菌を直接殺菌するのではなく、種もみの表面で素早く増殖し、苗づくりの期間中、病原菌の活動を抑制することで、病害の発生を予防します。「タフブロック」を使用した苗のもみ殻には、タラロマイセス フラバス菌の定着が、はっきりと黄色いコロニーとして確認できます。使用回数の制限がないなど、安全性が高く、環境にもやさしい防除剤です。



新潟県の大規模育苗センターにおける育苗風景

当社では、「食の安全・安心」をめざして、微生物防除剤の商品ラインナップの充実を図るとともに、生産現場の省力化につながる技術提案についても積極的に取り組んでいきます。

【タフブロックの概要】

- (1) 農薬登録日:2007年3月7日 農林水産省登録 第21920号
- (2) 製造元:出光興産株式会社
- (3) 販売元:協友アグリ株式会社、北海三共株式会社、出光興産株式会社
- (4) 荷 姿:100g袋、500g袋
- (5) 適用病害および使用法(下線部が今回の適用拡大):

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数
稲	褐条病	200倍	催芽時	24時間種子浸漬	特に定め ない
	ばか苗病 いもち病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病		催芽前	24～48時間種子浸漬	
	<u>苗立枯病(フザリウム菌)</u> <u>苗立枯病(リゾープス菌)</u>	種子重量の 4%	浸種前	湿粉衣	
	ばか苗病 いもち病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	20倍	浸種前～ <u>催芽前</u>	1時間種子浸漬	
	<u>苗立枯病(フザリウム菌)</u> <u>苗立枯病(リゾープス菌)</u>		浸種前		
<u>稲</u> ( <u>箱育苗</u> )	<u>苗立枯病(リゾープス菌)</u>	200倍	は種時 覆土前	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約50)1箱当り 希釈液200mlを土壌灌注 する	

以上

～ 報道機関のお問い合わせ先 ～  
出光興産株式会社 IR・広報室広報課(飯沼)  
TEL:03-3213-3115

～ お客様のお問い合わせ先 ～  
出光興産株式会社 アグリバイオ事業部(尾川)  
TEL:03-3829-1457